

第2章 下関市の景観資源及び景観特性

第2章 下関市の景観資源及び景観特性

2 - 1 下関市の景観を形成する要素

現在の下関市の景観は、瀬戸内海、日本海に沿う海岸線、内陸部の山地、河川などの自然の地形を素地とし、古代から近代までの歴史を重ね、都市基盤を形成するとともに、人々の都市活動、くらしの営みにより形成された景観です。

これらの景観を形成する要素の基盤となる地形などの自然的要素、また、それらを基に培われてきた歴史や市街地・集落形成、土地利用などの社会的要素により整理し、下関市の景観の特性を把握しました。

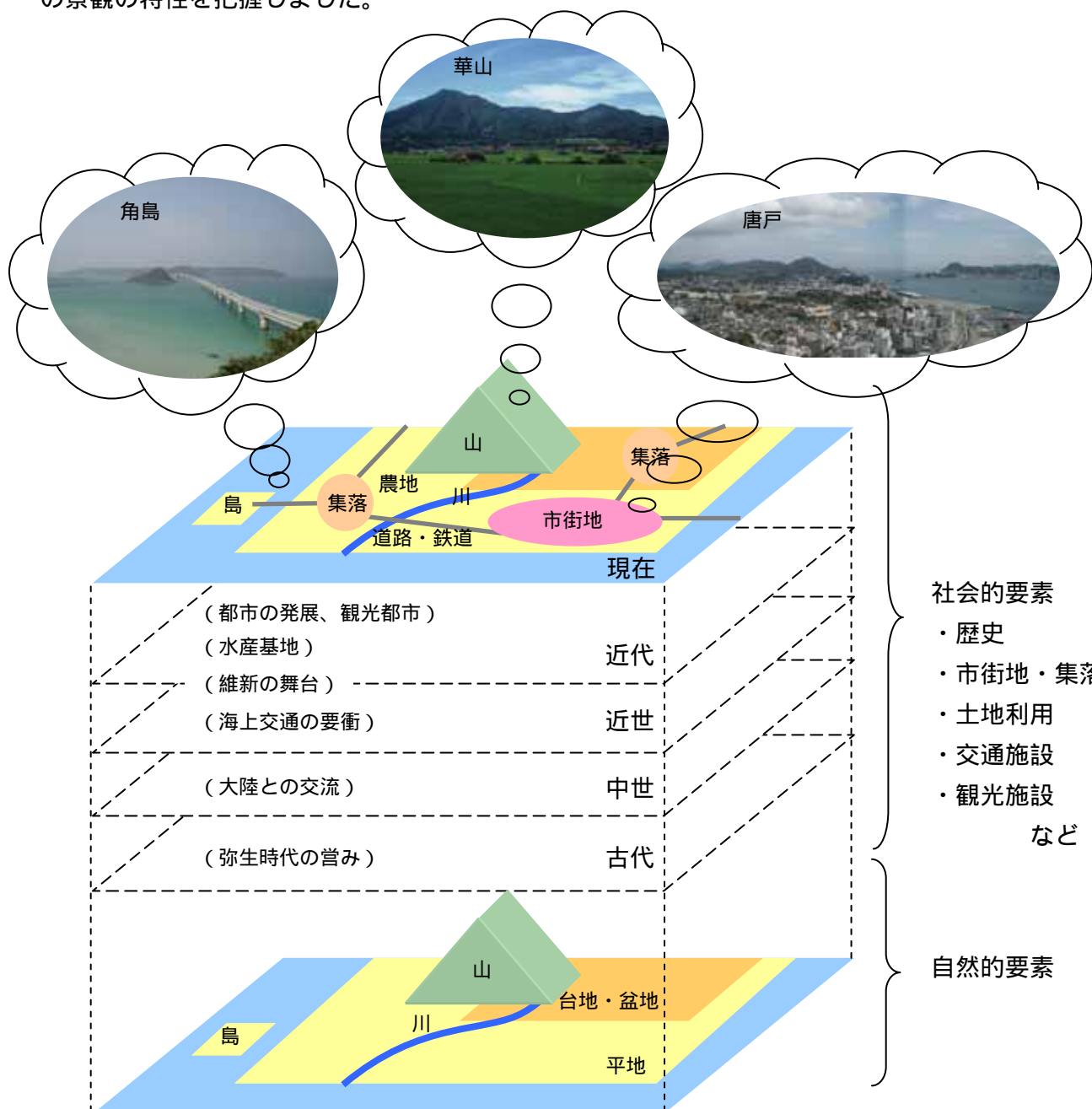


図 2-1 景観を構成する要素

(写真出典：ふるさとのまちムラ 100 景
/ 下関地域づくり推進実行委員会)

(1) 自然的要素

1) 地 形

下関市の景観を地形的に見ると、平地、山地などの面的広がり分類、また、海峡や海岸線、河川などの線的（軸）な分類として、以下のように整理できます。

面的要素

➤ 海岸沿いの平地・丘陵地

下関市は日本海、瀬戸内海に面し、海岸沿いは旧下関地区や豊浦地区、豊北地区の市街地が発達した平地・丘陵地となっており、海への開けた眺めの場があります。

特に関門海峡に面した中心市街地は、古代から朝鮮や九州などとの活発な交流、歴史の舞台となった深い歴史を有しており、臨海部のあるかぼーと地区をはじめとして観光交流施設が多く立地します。



図 2-2 関門海峡沿いに広がる中心市街地
(海峡ゆめタワーより)



図 2-3 高度利用される下関駅前



図 2-4 観光施設が多く立地する
臨海部のあるかぼーと地区



図 2-5 唐戸市場からの
関門海峡の眺め



図 2-6 赤間神宮からの関門海峡の眺め

➤ 内陸の平地・盆地

市の内陸部においては、粟野川、木屋川沿川を中心に平地・盆地が広がっています。

菊川地区や豊田地区の中心市街地が発達しているほか、肥沃な農地が広がっています。

豊田・豊北地区では丘陵地を利用した果樹園が見られます。



図 2-7 菊川盆地
(出典:ふるさとのまちムラ 100 景
/ 下関地域づくり推進実行委員会)

➤ 山地

市の北部、中央部は山地であり、北部は長門方面から連なる山岳地帯、中央部は比較的なだらかで、農地に恵まれています。



図 2-8 白滝山
(出典:ふるさとのまちムラ 100 景
/ 下関地域づくり推進実行委員会)

➤ 島

響灘には角島や蓋井島などの自然に恵まれた島々が存在します。

角島は北長門海岸国定公園区域内にあり、海水浴やキャンプ、明治 9 年建造の角島灯台など毎年多くの観光客を集めています。

また、角島と対岸とを結ぶ角島大橋は、特有のエメラルドグリーンの海土ヶ瀬を跨ぎ、景観と調和したその雄姿は西長門海岸地域随一の景勝地となっています。



図 2-9 角島

線（軸）的要素

➤ 関門海峡

下関市と北九州市、響灘（日本海）と周防灘（瀬戸内海）を結ぶ「六連島」から「串崎」までの約 27km にわたる関門海峡。

狭いところでは幅 700m あまりしかなく、また、兩岸の間を流れる潮流の速度は最高で約 10 ノット（時速 18km）にもなり、全国でも珍しい景観を有しています。

また、対岸の門司港を見渡すダイナミックなパノラマ景観とともに、国際航路でもあり、1 日大小 700 隻の多様な船が行き交い、船が鳴らす汽笛が風情ある雰囲気醸し出しています。



図 2-10 関門海峡の自然景観に調和した
関門大橋

➤ 海岸線

日本海、瀬戸内海に囲まれた海岸線は、瀬戸内海側では遠浅海岸で、一方日本海側は、入り組んだ地形で水産資源や観光資源が豊富です。

日本海側の国道 191 号は、通称西長門ブルーラインと呼ばれ、日本海の荒波によって浸食された海岸線一帯は、雄壮な奇岩断崖の連続で、その見事な造形美は北浦の海上アルプスとして知られています。

また、海岸線沿いにはコバルトブルーの海や美しい夕日を楽しめるポイントが点在し、多彩な自然景観を有しています。



図 2-11 響灘沿いを走る国道 191 号

➤ 河川

下関市の主な水系は、瀬戸内海に注ぐ木屋川と日本海に注ぐ粟野川があり、上流部はホタルが生息するなど豊かな自然を残しています。



図 2-12 粟野川
(出典：ふるさとのまちムラ 100 景
/ 下関地域づくり推進実行委員会)

➤ 山並み

下関市の北部、中央部の骨格を形成している山並みは、それぞれ、白滝山（667m）、華山（713m）などの市を代表する山を有しています。



図 2-13 華山
(出典：ふるさとのまちムラ 100 景
/ 下関地域づくり推進実行委員会)

2) 気象

下関市の気候は日本海側気候と瀬戸内海式気候の境界にあたります。

冬は北西の季節風の影響で曇天が多く、雨・雪の降る日もあります。降雪量は南部では少ないものの、北部の山沿いでは積雪量が多くなります。

気温は、右図に示すように、年平均気温で沿岸部で15～16程度、内陸部で14～15程度です。

特に旧市内では、16.5で海洋の影響が顕著に現れています。

気温の日較差は、響灘を流れる対馬海流の影響もあり、下関地域南部の旧市内及び響灘沿岸の気温の日較差は小さく温暖な気候に恵まれていますが、内陸では山に囲まれた盆地であるため日較差は大きく、冬は寒く夏は比較的暑くなります。

降水量は、右図に示すように沿岸部では1700mm～1800mmであり、内陸になるに従い降水量は増加し、1800mm～2000mm前後です。

内陸部では5月6月の降水量が多い反面、7月は少ないため、度々農作物が被害を受けることがあり、地域的に生活、営農用水などが不足することがあります。

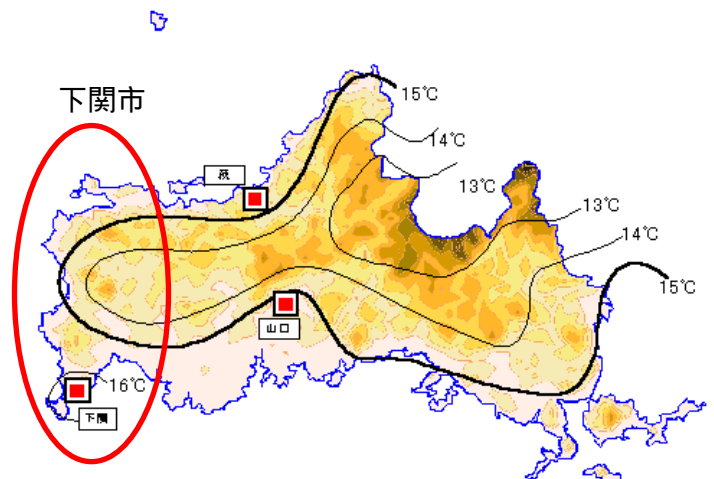


図 2-14 年平均気温

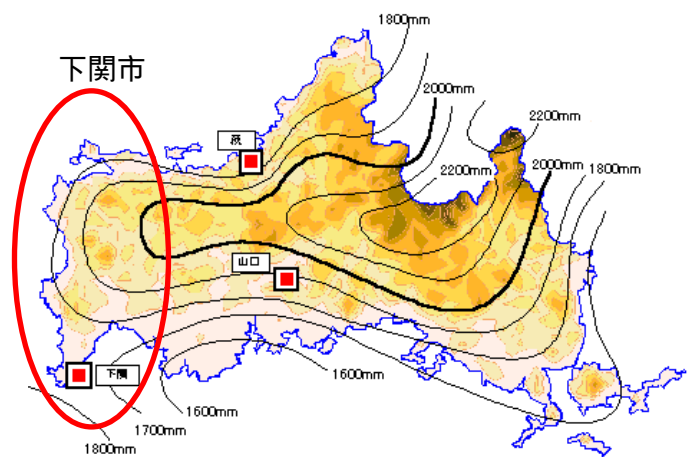


図 2-15 年平均降水量

(出典:下関地方気象台ホームページ)
平年値(統計期間:1971年～2000年)

自然的要素(地形)

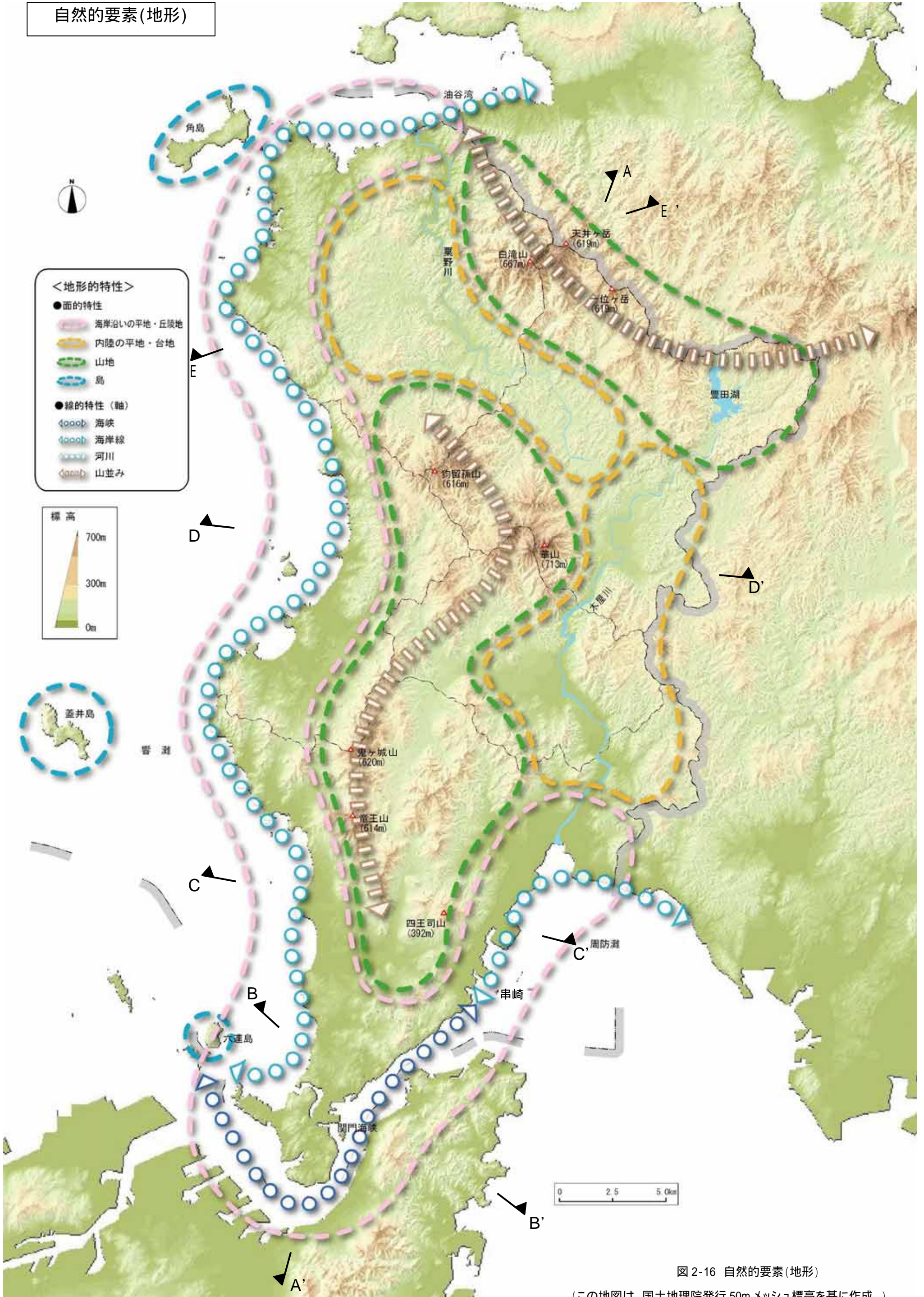


図 2-16 自然的要素(地形)

(この地図は、国土地理院発行 50m メッシュ標高を基に作成。)

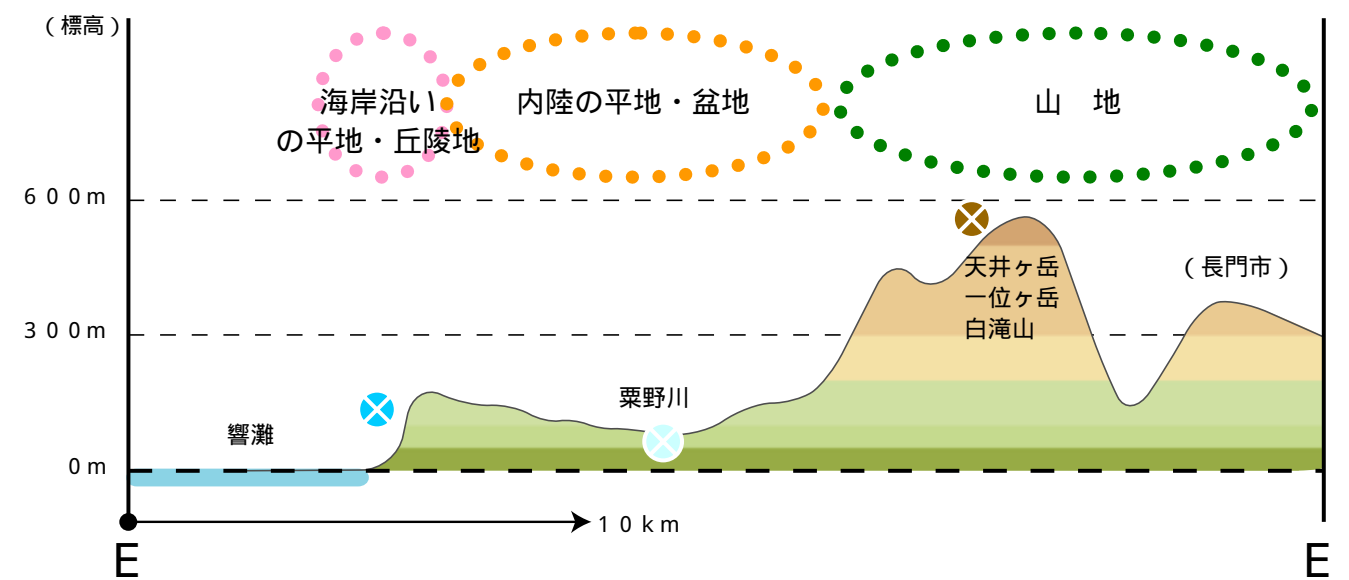
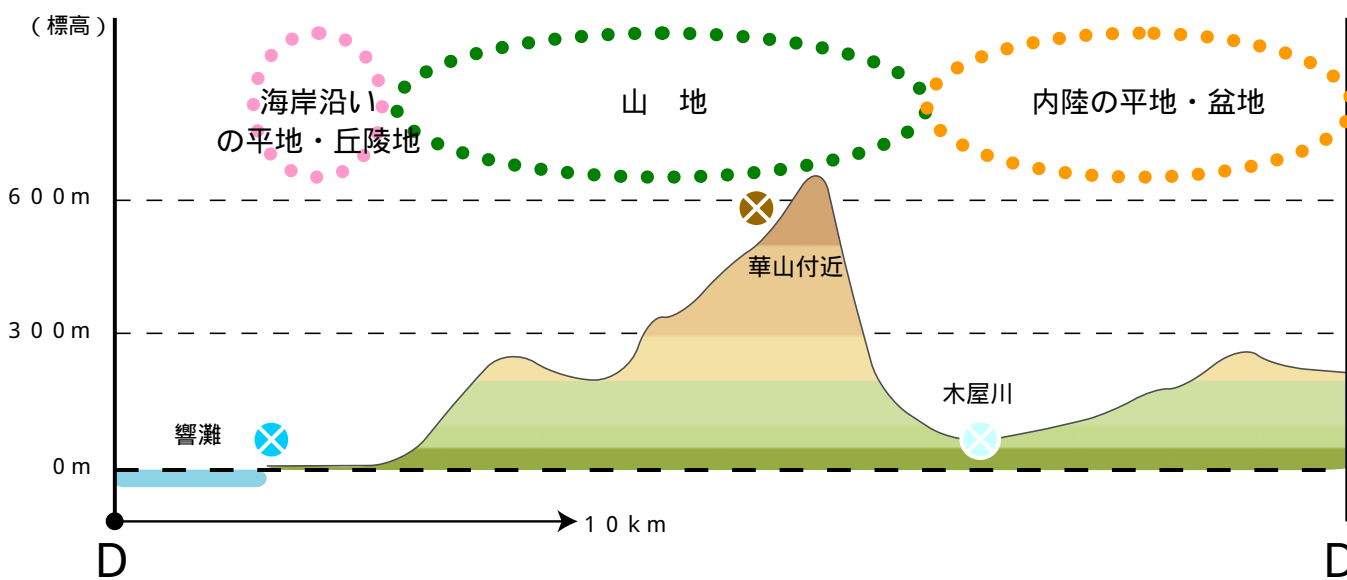
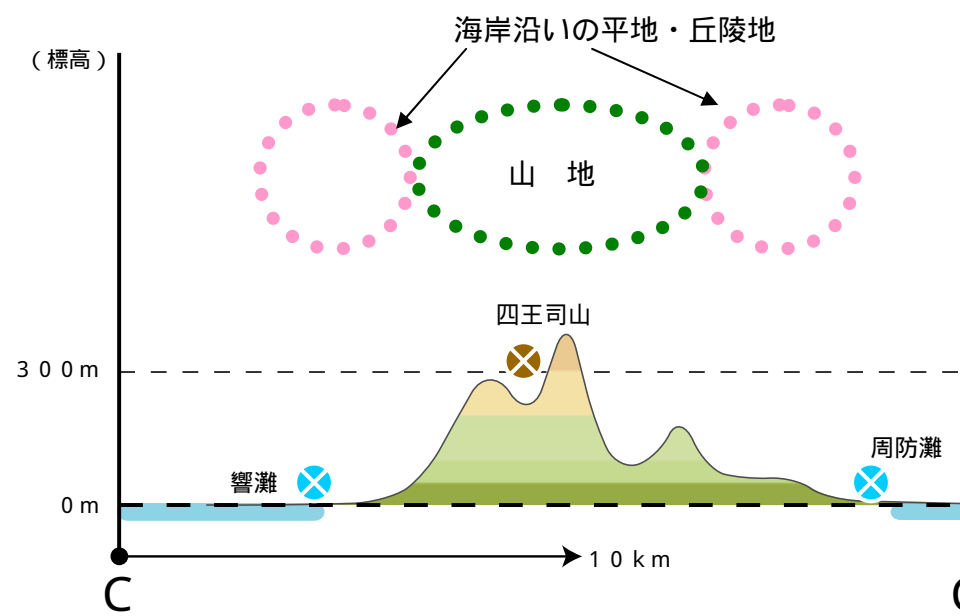
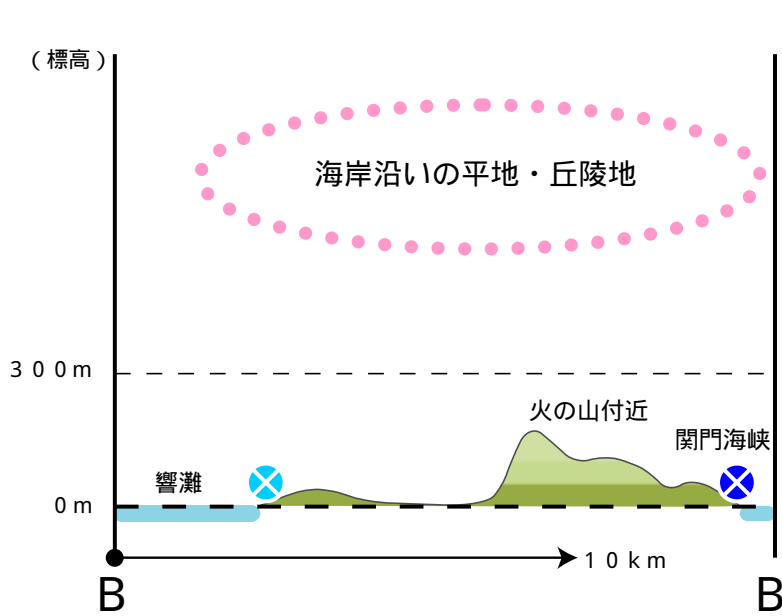
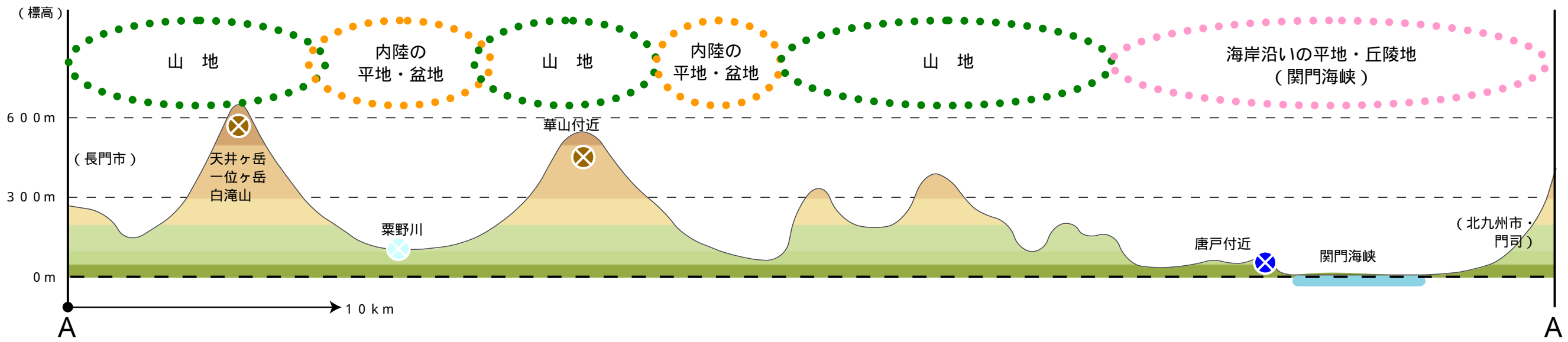


図 2-17 断面図(A ~ Eは前頁に対応)

